

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 門司海青 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

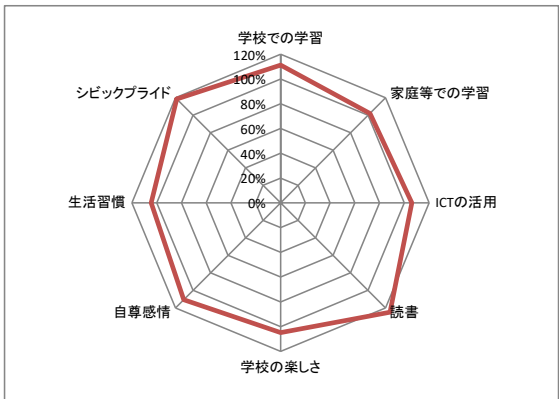
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び理解、思考力・判断力・表現力など、評価の観点すべてにおいて、正答率が全国平均を上回っている。特に話すこと・聞くことや記述式の問題において、正答率が高い傾向がみられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」について特に正答率が高かった。「話すこと・聞くこと」が充実してきたことが、「書くこと」への力につながっている。	
	努力が必要な問題	文章に書かれている事物の特徴について、その説明として適切なものを選択する問題で課題がみられた。中心となる語や文を見付けて、それらを活用しながら要約できるための指導を進めていきたい。	
算数	全体的な傾向や特徴など	知識及び理解、思考力・判断力・表現力など、評価の観点すべてにおいて、正答率が全国平均を上回っている。特に数と計算、データの活用や記述式の問題において、正答率が高い傾向がみられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	複数のグラフを組み合わせたグラフを読み、見だした違いを言葉と数を用いて記述する問題において、特に正答率が高かった。グラフから必要な情報を正確に読み取り、説明する力が身に付いている。	
	努力が必要な問題	図形について、その意味や性質について問われている問題で課題がみられた。図形を弁別、構成、作図をしながら、図形の構成要素に着目させていく指導を進めていきたい。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・生活習慣では、いずれの項目においても肯定的な意見が多くみられた。特に睡眠や食事に関して肯定的な意見が多く、規則正しい習慣が身に付いている。 ・自尊感情では、「自分には、よいところがあると思う」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、特に肯定的な意見が多く、学校・学年行事を通して得られる達成感や成就感が根付いてきている。 ・学校での学習では、「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について肯定的な意見が多く、話し合い活動を通して、主体的に学びに向かう力が着実に付いている。 ・家庭等での学習についての質問項目において課題がみられる。家庭との連携をさらに深めながら、家庭学習の質と量の確保の取組について見直しを行う。 ・シビックプライドに関して、いずれの質問項目についても肯定的な意見が多い。今後も地域とともにある学校に向けて、連携・協働の取組を推進していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・つまづきを早い段階で把握、気づくために、算数科における練習問題について、評価を毎時間行い共有する。 ・タブレットの使用について、ノート機能、共同編集機能、フォルダ編集機能の効率的・効果的な活用の推進。 ・「分かる」、「できる」につながるドリルアプリを活用した、個別最適な学びの充実に向けた補充学習の取組。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の質や量の充実に向けて、個に応じた課題の工夫による、宿題のやり残し完全ゼロに向けての取組。 ・スマホ・携帯電話の完全10時電源オフ100%を目指して、委員会活動を活用した定期的な啓発活動。 ・「気軽に本、身近に読書」の定着に向けての、内読（家庭読書）充実のための図書館利用率向上の取組。
--